

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和8年1月1日～令和8年8月9日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和7年数値は1月1日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 8 年	201	32	2	86	108	228
令 和 7 年	216	32	3	105	107	247
前 年 同 期 比	-15	0	-1	-19	1	-19

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	27	13.4%	3	0	13	17	33
	後立山	65	32.3%	17	0	23	38	78
	その他	23	11.4%	1	0	15	9	25
計		115	57.2%	21	0	51	64	136
中央アルプス		12	6.0%	0	0	6	7	13
南アルプス		5	2.5%	1	1	2	1	5
八ヶ岳連峰		22	10.9%	5	0	8	11	24
その他の山岳		47	23.4%	5	1	19	25	50
計		201		32	2	86	108	228

3 態様別発生状況

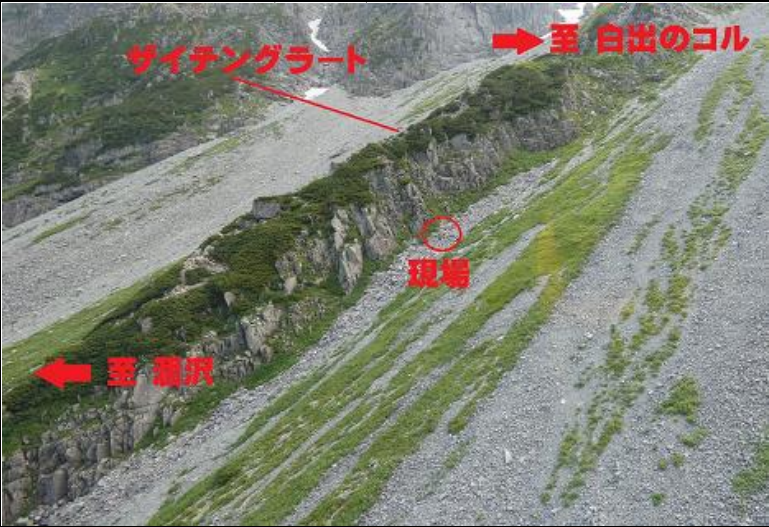
区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	56	27.9%	14	0	46	0	60
転 倒	36	17.9%	0	0	35	1	36
病 気	14	7.0%	6	0	0	8	14
道 迷 い	25	12.4%	0	0	0	35	35
落 石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪 崩	3	1.5%	2	0	1	0	3
落 雷	1	0.5%	0	0	1	0	1
疲労凍死傷	33	16.4%	3	0	0	34	37
不明・他	33	16.4%	7	2	3	30	42
計	201		32	2	86	108	228

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	1	0	1	5	7	39 25.3%	0	0	1	3	4	21 28.4%	11	60 26.3%
20代	2	0	4	15	21		0	0	1	5	6		27	
30代	1	0	4	6	11		1	0	2	8	11		22	
40代	4	0	10	8	22	52	1	0	2	1	4	22	26	74
50代	5	0	13	12	30	33.8%	1	0	12	5	18	29.7%	48	32.5%
60代	10	1	10	19	40	63	2	0	8	4	14	31	54	94
70以上	4	1	9	9	23	40.9%	0	0	9	8	17	41.9%	40	41.2%
計	27	2	51	74	154		5	0	35	34	74		228	
比 率	67.5%						32.5%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（8/3～8/9）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
8月3日	中央アルプス 木曽駒ヶ岳	女	69	負傷	転倒	5人パーティで千畳敷に向けて八丁坂を下山中、転倒、負傷
8月4日	北アルプス 白馬岳	男	52	無事救出	疲労	2人パーティで大雪渓を下山中、疲労により、行動不能
8月4日	北アルプス 白馬岳	男	70	無事救出	疲労	2人パーティで大雪渓を下山中、疲労により、行動不能
8月4日	北アルプス 槍ヶ岳	女	57	負傷	転倒	2人パーティで登山中、槍ヶ岳山頂付近で転倒し、負傷
8月5日	北アルプス 針ノ木岳	男	66	無事救出	疲労	単独で扇沢から針ノ木岳に向けて登山中、疲労により、行動不能
8月5日	雁田山	女	62	負傷	滑落	2人パーティで雁田山から下山中、足を滑らせ、滑落、負傷
		女	67	負傷	滑落	
8月5日	北アルプス 奥穂高岳	男	57	負傷	滑落	単独でザイテングラートを下山中、滑落、負傷
						上記遭難現場写真
8月6日	北アルプス 常念岳	女	77	無事救出	疲労	12人パーティで蝶ヶ岳から常念岳へ向けて縦走し、付近の山小屋に宿泊したものの、翌日、疲労及び足の痛みにより、行動不能
8月6日	南アルプス 易老岳	男	66	行方不明	不明	2人パーティで易老岳から易老渡へ向け下山中、面平付近で同行者とはぐれ、何らかの原因で、行方不明
8月8日	北アルプス 白馬岳	男	57	無事救出	疲労	2人パーティで大雪渓を下山中、疲労により、行動不能
8月8日	北アルプス 槍ヶ岳	男	19	死亡	滑落	単独で北鎌尾根を登山中、何らかの原因により、滑落
8月9日	中央アルプス 宝剣岳	男	55	負傷	転落	単独で木曽駒ヶ岳から槍尾岳へ向け縦走中、宝剣岳付近で、スリップし、滑落、負傷



上記遭難現場写真

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、12件の山岳遭難が発生しました。

北アルプス槍ヶ岳・北鎌尾根では、滑落による死亡遭難が発生したほか、県内各地の山域では、滑落や転倒による遭難、疲労による行動不能遭難が発生しました。

特に、白馬岳周辺や常念岳周辺では、縦走登山中の疲労遭難や、下山中の疲労遭難が頻発しています。

初日の行動中や行動後、意識的に水分補給をせず、疲労が回復しない状態で2日目の行程に入り、暑さ・脱水・エネルギー不足等が重なり、行動途中で動けなくなる遭難がほとんどです。

縦走登山は大変魅力的ですが、荷物が重くなるため、普段以上に、体力や筋肉が消耗します。

まずは、「信州山のグレーディング」や「コースタイムを記した地図」などを参考に、自身の体力や技量に見合った、ゆとりのある登山計画を立てましょう。

計画は、体力錬成、必要な装備や行程の確認、家族や関係者との情報共有など、登山のリスクや対処方法を考える良い機会となります。

大自然の中で、自分の命を守るために、いつでも「冷静」で「慎重」な判断を大切にしましょう。